

るさへ 探訪

月

暦

三日・三景・三平汁

平成十八年度も終わりの三月であり、「三月去る月・卒業の月」でもあるから、園児・児童・生徒そして学生がそれぞれの学び舎から巣立つ三月は正に「振り返る三月向かう四月空(枯良)」ともいえる。

三日(じゅうご) 三月三日は桃の節句であり、人日(ひとひ)一月七日、せり・なすな・こぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな・すずしろ春の七



種(くさ)の節句(く)、端午(たんご)五月五日、菖蒲(しょうぶ)の節句(く)、七夕(せちや)七夕祭、七月七日、本道では八月七日(重陽(ちゅうやう)菊の節句、九月九日)と共に五節句の一つでもある。

また、月の最初の巳(み)の日が三日であることから上巳(じょうみ)ともいわれるが、なんといつても三月三日は「雛の節句」であり、雛人形を飾る雛祭である。

雛の祖型は、平安王朝時代の宮廷貴族家庭で幼い姫たちが遊んだ「ひいな、ひなの古語」であり、小鳥の雛を連想させる小さくてかわいらしい意味を持ち、源氏物語(一〇〇七年紫式部)に出てくる「ひいな」は紙人形が小布で縫った「道子」かともいわれている。道子とは幼児の這う姿に似せて作られ、人形(ひとがた、形代:人の身代わり)が呪術的な役目をしたが、室町時代(一三四九ごろ)に中国から伝わった人形技術によって女兒の節句の雛人形となったという。

二〇〇〇年(平成十二年)のふるさと探訪:生活の詩ひなまつり三月には(頑な 父にてあるも雛飾る)から、(雛段を 遠まきにして 写す顔)も見えるが、ふるさと東川の雛祭のトレンド情報はどうなのだろうか。雀がめつきり見えなくなったけれども、樺(か)つた恋路のすずめ 雛の昼(爽雨)から、新聞の伝言板に「二五年前の七段飾りひな人形を差し上げます」が登載される昨今の生活情報もあるが……。

三景……風光明媚な三か所のことをいい、松島・天ノ橋立・蔵島は日本三景で有名な景勝地である。「松島や ああ松島や 松島や」、「逆さ見の 天ノ橋立 白と青」、「宮島の 原生林や 蔵島」など、三景にまつわる詩歌は自然美そのものといえる。

ふるさと東川の三景といったら、旭岳・羽衣の滝・岐登牛森林公園になるのだらうか(私的三景)。ともあれ、写真の町ひがしかわでは「東川百景の絵はがき・名刺」が発行されたり、国内では「日本の滝百選・百名山」などが選定されたり、そして「近江八景」をはじめとする各地の八景などと、三景からどんな景数が増え続けるの

は「おらが郷土の自慢」という観光客へのアピールでもあろうか……。因みに旭川の三景スタジオが新聞に掲載されていたが、三景とは同位の三つであるから、ベストスリーではないので……。

三平汁……ぶった切り、こった煮これぞ三平汁(理美)であり、野菜と煮込んで頭や粗を一緒に、フウフウ言いながら味わう塩鮭(しほ)の三平汁は漁師三平の考案とか。粕汁にした時の旨味はまた格別で、寒い冬の食卓の王者とも。時には鱈(たら)の味噌汁が薪(かま)ストープで煮込まれたり、塩引き魚の塩味・醤油味の三平汁が三平皿に盛られたりもしたが、思えば四〇年前に、義弟の母の故郷である青森県相馬村(現在の弘前市)で懇願していただいた山菜入りこった煮の妙味は今でも舌に残っているし、「北海道の義兄さんには……。」と言われた吹雪の夜も。

三月は三省の月として弥生三月の彼岸も過ぎて、妹の嫁ぎて四月 永かりき(草田男) 日を過ぎなくちゃ……。

(元)郷土史編集専門員
尾池隆男

人口 / 7,709人 (前月比 16人)、男 / 3,683人 (前月比 10人)、女 / 4,026人 (前月比 6人)
世帯数 / 3,079戸 (前月比 2戸) 出生 / 5人、死亡 / 7人、転入 / 14人、転出 / 27人【1月31日現在】
住民登録の手続き上、人口増減と出生・死亡・転入・転出の増減は一致しないことがあります。